

「東京湾UMIプロジェクト」アママの種まきを実施しました

マルハニチロ株式会社（本社：東京都江東区、代表取締役社長：池見 賢）は、11月3日（金・祝）に「東京湾UMIプロジェクト」の活動の一環として、アママの種まきを実施し、マルハニチログループの社員とその家族合わせて48名が参加しました。

マルハニチログループは、東京湾の水質を改善し、海の生物の棲み処となって沿岸の環境を整えるアママ場の再生活動に協力しており、2016年からは国土交通省 関東地方整備局の「東京湾UMIプロジェクト（東京湾・海をみんなで愛するプロジェクト）」協力企業に認定されています。

●実施概要

【日時】2023年11月3日（金・祝）

【場所】横浜市柴漁港・海の公園（神奈川県横浜市金沢区）

【主催】マルハニチロ（株） 経営企画部 サステナビリティ推進グループ、マルハニチロユニオン

【指導】NPO 法人海辺つくり研究会、東洋建設株式会社

【参加】マルハニチログループの社員とその家族 48名



完成した播種シートを前にした参加者の集合写真

マルハニチログループは、横浜市柴漁港・海の公園周辺を含む東京湾でのアママ場再生活動を2015年から継続的に行っています。以前は埋め立て前の姿に近づくまでアママ場の面積は増えてきましたが、近年の台風の影響で面積が減少しました。そこで、再びアママ場の面積を増やすために、初夏に花枝から採取した種子を秋にまき、再生活動を行っています。

アママの種まきでは、ヤシマットの上に広げた生分解性の不織布に、でんぷん糊に混ぜたアママの種を塗り、環境に極力負荷を与えない播種シートを作成しました。



アマモの種



アマモの種とでんぷん糊を混ぜます



播種シートにアマモの種を塗り広げます

完成した播種シートをダイバーが海の公園の海中へ沈める様子を、水中ドローンで観察する予定でしたが、当日は赤潮が発生したため、断念しました。NPO 法人 海辺つくり研究会の皆さまからは、赤潮の原因となっているプランクトンの観察の仕方や、秋になっても水温が高いことが赤潮の一因となっていることなど、気候変動による海への影響について教えていただき、参加者の活動への理解も深まりました。



播種シートを船に積み込み、海中へ



赤潮の影響で水中ドローン観察は断念



参加者が話に聞き入る様子

海の恵みを事業の資本としているマルハニチログループは、今後も積極的に、持続可能な海洋環境を創造していくための活動に取り組んでいきます。

以上

【本件に関する問い合わせ先】

マルハニチロ(株) 経営企画部 サステナビリティ推進グループ

kankyou@maruha-nichiro.co.jp